

第七節 鉄 道

一 鉄道の始まり

明治五（一八七二）年に東京新橋―横浜間の鉄道開通以来、明治七年には神戸―大阪間、同十年には大阪―京都間、同二十二年には東京新橋―神戸間の東海道線の全通と発展していった。

しかし、政府にとって最大の悩みは鉄道敷設のための資金難であった。

政府は、伊藤博文や大隈重信に命じて英国より資金の借入れや国内資本の出資などに努力させた。

明治二十年には「私設鉄道条例」を公布し、私設鉄道を奨励したので、それを機に鉄道熱が盛り上がってきた。

四国では、明治二十一年十月に伊予鉄道が松山―三津浜間で開業したのが最初である。

二 徳島鉄道の開通

明治廿九年五月四月鐵道開通
徳島鐵道株式會社ノ發起鐵道敷設
設假免狀下付ノ件ハ請願ノ通
明治廿九年五月十九日
内閣總理大臣侯爵伊藤博文

明治二十八（一八九五）年に板野郡一条村大串竜太郎外一九名が資本金八〇万円で「徳島鉄道株式会社」を設立し、明治三十二年二月に徳島市から鴨島まで一二哩（一・八・九哩）の路線で開通した。

これが本県での最初の鉄道である。

石井町内での鉄道建設に当たっては、石井村の生田彦

平・生田小源太や高川原村の近藤満太郎の用地寄附があり、一方、渡内川架橋工事や浦庄村内の橋梁工事については訴訟問題があった。

明治三十二年二月十五日の開通式当日には石井駅にアーチや球灯を吊したり町筋も花門で飾ったり踊りもあつてにぎわった。

この徳島鉄道はその後、次のように路線を延長し、発展していった。

明治三十二年 二月 十六日	徳島―鴨島間を開業
明治三十二年 八月 十九日	鴨島―川島間
明治三十二年十二月二十三日	川島―山崎（現在の山瀬）間
明治三十三年 八月 七日	山崎―船戸（現在の川田）間
明治 四十年 九月 一日	國が買収して国有鉄道となる
大正 三年 三月二十五日	船戸―池田間開通

三 石井駅の開業

徳島鉄道の開通によって石井村字池田に石井駅が設置され、明治三十二（一八九九）年二月十六日に開業した。

これは徳島・府中・牛島・鴨島の各駅と共に県内で最も古い駅の一つである。

開設当時の石井駅の定員は一〇名で、初代駅長に米田経太郎が任命された。

当時は徳島―鴨島間七往復の運転で所要時間は四三分、料金は石井―徳島間が一〇銭（当時米一升が八銭）であった。

石井駅には現在くすの大本が二本遠くからも分かるほどそびえているが、多分石井駅開設の時に植えられたものである。

また、石井駅付近には池があったが、これは、線路や石井駅をつくるのに必要な盛土を取った跡にできた池であった。

石井駅の外に石井町内では、昭和九（一九三四）年九月二十日にガソリンカーのみ停車する「白鳥駅」と「下浦駅」ができたが、昭和十五年八月一日に両駅とも廃止された。

当時、徳島本線には、ガソリンカーと汽車が運行していた。

その後、昭和三十二年十一月一日に「下浦駅」は復活した。

徳島鉄道開業時の列車運行時刻表及び運賃並びに石井駅乗客数などの推移は、次のとおりである。